

# 沖縄語 かわら版

## 沖縄語を話す会会報

第6号

2005年6月30日発行

会長 城間 朝昌

事務局（編集室）

〒215-0031

川崎市麻生区栗平2丁目2番9-303

hasama-s8@lime.ocn.ne.jp 國吉 真正



月刊 沖縄の声「8月1日2003年」から 野原ツル子さんの「とーかち御祝」

「<sup>おきなわ</sup>こ <sup>はな</sup>かい <sup>ちち</sup> <sup>たけーんあち</sup> <sup>びんちよーい</sup> <sup>しながわ</sup> <sup>おーさき</sup>  
沖縄語を話す会」 月に二回集ま<sup>て</sup>ぬ勉強会、品川<sup>ぬ</sup>大崎<sup>を</sup>て

・ <sup>にしゅーく</sup> <sup>るくにんめー</sup> <sup>うはなし</sup>  
二十五、六年前<sup>ぬ</sup>御話 ----- 福本和子

・ <sup>うちなーくちなら</sup> <sup>うむ</sup>  
沖縄口習<sup>て</sup>ぬ思<sup>く</sup>ど ----- 座覇光子

・ <sup>じむきょく</sup>  
事務局から

染料インクを使用しています。水濡れにより、変色したり印字がにじみますのでご注意ください。

にじゅーく るくにんめー うはなし  
二十五、六年前め御話 福本和子（足立区）

なま とーちよー やせーう まちや めー ちち ふつふ  
今ど東京ぬ野菜売や一町屋ぬ前んかい、包み隠

さんくど なら びてーる「ごーやー」どやいびーしが、

にじゅーく るくにん とーちよー し ぐてー  
二十五、六年まんぐろー、東京をて一直ぐ手んか

えー入りらりーる物ーあいびらんでーくと、胴さーに

ちゆく 作とーいびーたん。はるあつ ちよー はるか  
原歩ちやーから原借て、「な

べーらー」と「ごーやー」作とーいびーたん。

また、「ごーやー」ぬ種ー沖繩から取り寄しとーいび  
ーたん。

ある日ぬ事やいびーしが、やまと いなか とーちよー  
大和ぬ田舎から東京ん

かい上がて来やる同土ぬ、遊びーが来やーびたん。あ

んし、どーぶ な いるあたいぬ「ごーやーちゃんぶる

ー」と、「なーべーらーんぶしー」作てうさぎやびた  
ん。

「なーべーらーんぶしー」や、口んかい合てーいびー

さ。いっぺーまー い 言ちうさがとーいびーたん。

やいびーしが、「ごーやーちゃんぶるー」や、同土ん

かいや、なんずいー物ーあいびらんでーさたい。

どしえ 同土ー「あんし 苦物良一嚙どーさやー。」んて言び

たん。んじやむの くち あー ふーじ  
苦物一口んかい合らん風儀やいびーたん。

日ん経ちやるある日ぬ事やいびーしが、うぬ同

土ー、「ごーやーや何処をて売とーが。何処かい行じ

ん無ーらんしが。」んて言ち我んにんかい問いびーた  
ん。

わ 我んねー、「苦さぬ嚙まらんたえーさに。」んて言び  
たん。

あんさびたくど、うぬ同土ー、「なー一回嚙て見じ欲  
さん。」んて言びーんでーたい。

わ 我んねー、種取りる為に、んどーる「ごーやー」ど嚙

まりーる「ごーやー」送やびたん。

ゆくとしえ 翌年ー、庭んかい植てーたる種から、見事な「ごー

やー」ぬ成いびたんてたい。

「あぬやー、さっぱちし旨さぬ忘らん味やんや

ー。」くちゆた 心地宜たさる 苦みぬあんやー。」んて言ち、

どしえ 同土ー、なー、ごーやーんかい肝ー取らつて無ーらん

ふーじ 風儀やいびーたさ。

ありから、にじゅーにんあま た 二十年余い経ちやる今ー、「沖繩ブ

ーム」ぬ真盛り成て、「ごーやー茶」、「ごーやーカレ

ー」、「ごーやー煎餅」、「ごーやーチップ」そーな物ぬ

すり 揃て出じとーいびーん。

うちなー ちゆ わ 沖繩ん人ぬ我んにんかえー、いー物ぬ安く手んかい

入ち、「ごーやー」ぬ旨さる此ぬ節ー、いっぺーしやわ

んて思とーいびーん。

また、ありからにじゅーにんあま うどさた ね 二十年余い音沙汰ん無ーんたる同土

から、くねーだ 此間んしから知らしめ来ゆーる如成いびたん。

んちや、あんやいびーさ。「今んごーやーんかい肝ー取

らつてど居るい。」んて問て見てわどやいびーさ。



うちな-くちなら うむ  
沖縄口習てぬ思くと

座覇光子 (川崎市)

ちかくろ うちな-くちえ あらた ちゆ ち  
近頃一、 たったたつた沖縄口一 改みて、清らく聞

かりて来や-び-くと、一杯あ-りきさいび-ん。

わ 我んね一、大和をて 生まりと-る「二世」どやいび-

しが、うちな-くちえ ち な  
しが、沖縄口一聞ちゆしえ一 成いび-ん。

わか 解と-んで思と-たる言葉やいび-しが、うる覚-

そ-しがいびて、ふんと- ちむえ- わか  
そ-しがいびて、本当ぬ肝合ぬ解かいび-ね-

いっぺ-うどる ひとつば ちむんじゆ ぶが かんげ  
一杯驚ち、うぬ言葉んかい肝動かさつて、深く考  
-たいそ-いび-ん。

うちな-くちなら ばす ふいじよ- あ ち  
沖縄口習いる場所ぬ会 場ぬ、はしる開きて、「来や  
-びりたい。」んで言び-ね-、「はいさい、ちゃ-頑  
じゆ- 丈やみしえ-てい。」んで返答ぬあいびて、肝んや  
-や-と成いび-ん。

ちば なかいま うんじよ じゆん  
千葉からめんしえ-る仲井真さの一、「御所一 純  
うちな- ちゆ  
に沖縄ん人やさや-。」んで言みそ-ち、わんが「何  
んでちあん言みしえ-び-が。」んで問いび-ね-、  
なかいま うちな- ちよ かつした は  
うぬ仲井真さの一、「沖縄ん人一、靴下一履かんむ  
ん。」んで、て-ふしみそ-ち、たげ わら  
互-に笑と-いび-  
んたい。

なかいま わ うちな-くち う  
仲井真さの一、ちゃ-、我んにんかい沖縄口っし御  
はなし  
話しみしえ-び-くと、いっぺ- くちな  
一杯び-心地成いび-ん。

はじ をが うちな- みなく うかた  
また、初みてあ-ちえ- 挿たる沖縄ぬ 女ぬ御方か  
ら一、「御所ぬ面一、直く沖縄ん人んち分かいび-ん  
や-。」んで言らり-る事んあいび-ん。

やまと ちゆ い くと  
「大和ん人んかいん、あん言らり-る事んあいび-ん。

わ 我んね一、嬉さいび-ん。うちな- ちゆ  
沖縄ん人どやいび-くと、

け- い ま  
却て一、あん言らり-しえ-、益しいび-さたい。」

んで言ち笑て返答そ-いび-ん。

うちな- やまと け- め- くと なま  
沖縄ぬ大和んかい帰ゆる前ぬ事やいび-たん。今

さんじゆ-さんになめ- くと  
から三十三年前ぬ事やいび-んや-たい。

ぶ-ま へん ぬなく うかた まちや  
八重山から出じてめんそ-ちやる、女ぬ御方ぬ町屋

をてぬ事やいび-たん。「御所一、沖縄ん人んかえ-

み 見-やびらん。」んで言みそ-ち、わんね一、驚ち「あ

ね-あいびらんえ-さに。此ぬ目見ち見じみそ-れ

ふ-ざら ふに たか わ ぶんと-  
一。頬面ぬ骨ぬ高さいび-え-さに。我んね一、本当

うちな- ちゆ  
ぬ沖縄ん人どやいび-る。」んで言ち、わん頬面良-

み  
見しやびたん。

わ 我んね一、生まれ付ち色 黒どやいび-るむんぬ、あか

ぬ にほんごじよ-ず  
抜けているもの。」日本語上手だもの。」んで言ら  
りやびたん。

わ 我んね一、「大和をて 生まれたくと、仕方-無-びら

んさ。」んで言びたしが、え-て がつての  
相手-合点-さびらんたん。

うんに-まんぐろ-、うちな- ちゆ  
うぬ町屋ぬ 主一、「沖縄ん人」

んで言-ね-、ちら  
嫌-りゆんでが思と-たらや-んで

うむ  
思やび-ん。

うちな- ちゆ くと やまと ちゆ  
沖縄ん人ぬ事「大和ん人」んで言しえ-、褒み-る言

ば うま ゆ- うま  
葉んで思-つと-たる世やいび-て-さや-んで思  
-りやび-ん。

じちえ ぬ- し うむ  
実-何やてん済むんで-思やび-しが、わんが

やまと ちゆ み くと ゆ わ  
大和ん人んかい見-ゆんで言しえ-、我んにんかえ-

かんげ 考ーらりーる事ーあいびらんたい。

わ 我んにんかいぬ寝言葉ー、「沖繩をて生まりたる沖  
なーちゆ 縄人やかー、なーふん沖繩人らーさん。」んて言  
らりーる事やいびーん。

「郷に入っては郷に従う。」んて言う故事遺言葉

ぬあいびーしが、鹿兒島人ぬ「我達や従らん。」

んて言びたん。此ぬ事ー、一杯肝合ぬあんで思とー  
いびーん。

やまと 大和んかい言葉まで奪らつて、沖繩口使いびーねー、

「方言札」まで首んかい下ぎらつたしえー、まぎさ

る虫ぬ為ねー、小さる虫ー、殺さつてん済むがやー

んて疑ー持つちよーる人ぬ、奪らつたし取り返す

る事、胸くるさーにすんぐる大切な肝合ぬあんで思  
とーいびーん。

くどば 言葉んかえー、「言霊」んて言ち「魂」ぬ宿とーん

て言つとーいびーしが、沖繩ぬ言葉奪ゆしえー、沖繩

ぬ「魂」奪ゆる事と、いぬ物ーあらんがやーんで思  
やびーん。

かくしま 鹿兒島人から故事遺言葉ぬ御話聞ちやびて、我ん

ねー、嬉さし一杯肝動かさりやびたん。

また、な一世世ぬしりて行じやる沖繩世ぬ事聞ち

ゆ次第、沖繩人ぬ達暮らしぬ事ぬ解いんねーさ  
びーん。

わ 我ん女ぬ親ー、ちゃー「御粥めー」んて言ちよー

いびーたくど、我ん弟ー、大和口ぬ「御粥」んて言

しえー解いびらんたん。

「今日の御飯は何。御粥めー、雑炊。」んて言ち問と  
ーいびーたん。

沖繩をて、「御飯」んて言しえー、「御粥めー」

どやたんでぬ事ー聞ちよーいびーん。

いくさう 戦終わてちゃーけー、はんめーぬ切りて、うんにー

まんぐるぬ世ぬ工夫どやいびーてーんでーやーたい。

「雑炊めー」ん「雑炊」んて言ち、色々な物ぬ入っ

ち、本当や旨さ物どやいびーたる筈やいびーしが、米

いちわりと残えータンポポ、ふーち葉そーな原んかい生

とーる草多く入つて作てーしやいびーたん。

なー、うり噛みーねー、泣ち欲しく成いるあたいぬ物

どやいびて、川崎をてん我達やうりどあたいびーた

る。

沖繩をてん大切なはんめーやたるあぬ芋ー、旨さた

ん、にーさたんて言ち、あながちさする世成いびたん

やーたい。

沖繩口習て、昔ぬ沖繩、うりから暮らし方に就ー

て、解いびーねー、沖繩人ぬ考ーどか、思ちちゆる

くど 事ぬ如何ぬ風儀っし、変わとーがやーんで言しん解

いんねーさびーん。

沖繩口ー共通語始みどっし、中国、韓国、イ

ギリスぬ言葉、うりから声ぬ似ちよーしがあいびーん。

例れー、韓国をてー、女ぬ親んかえー「おんま、沖繩

くち 口っしえー「あんまー」んて言ち、似ちよーいびーん

やーたい。

わ 我ん女ぬ親ー、出来とーし寝みたいする場やか、な

ちかしく成いる場ねー、「あいえーなーなー」んて言ち

よーいびーたん。

かんこく 韓国をてー、「あいなーなーなー」んて言びーんてたいい。

また、英語っしえー「-----をする人」んかえー言葉ぬ終いんかい「er」付きて、「Teacher」,「Walker」そーな言葉ぬあいびーん。

やまどぐち 大和口ぬ「漁師」んかえー、うちなーぐち 沖繩口っしえー「海歩ちゃー」うりから良ー出来ーしんかえー「出来やー」やんばる 山原ん人んかえー「山原ー」んて言ち、えいご 英語んじ言葉ぬ終いんかい「er」付きーしんかい似ちよーいびーんやーたいい。

いふい 小ぢ書ちゃびたしが、ゆすくに 余所国ぬ言葉んかい似ちよーる所見じゃびーねー、うちなー 沖繩ん人ー、かーま 昔一、ゆすくに 余所国ぬ人ぬ達 どん御互ーにふらて、ひろーる 広そーる海超て、何処ぬ国どん手取いる人ぬ達やてーさやーんて思やびーん。

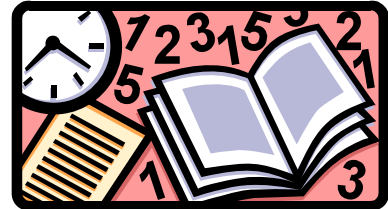
やいびーしが、うちなー 沖繩ぬ中をてー、んかえー 昔ー身分ぬ変わいねー、言葉使ーまぞん変わたい、あなぐ 女ぬ名に就てー、しくばーんかいある 鍋、竈そーな名付きて、また、いむん 生ち物どか木草ぬ名まで付きて、「うし」 「うさ」 「つる」 「かめ」 んて言ち呼どーいびーたんやーたいい。

「まつ」 「たけ」 やれー、かりー 嘉例な事ーやいびーしが、あなぐ 何がやら 女ぬ立場から見じゃびーねー、さびつ 寂さんて思とーいびーん。

「ちゃんぷるー文化」んて言びーら、まんちゃーふ

んちゃーそーしがあいびーん。

うちなー 沖繩ぬいー所ー無ーん成さん如っし、みな 皆さーに守て、「うちなー 沖繩ぬ肝心」無ーん成さんだれー、なーふん 立派な沖繩口ぬ、世界んかい広みらりーる日ぬ来ゆーんて信じとーいびーん。



### 事務局から

会報第6号の発行は大変遅れてしまいました。私事で恐縮ですが、6月、7月は地域の役目が多く、時間を確保するのが大変でした。これからは軌道に乗せられると思います。

今回も貴重な話題を寄せていただき、ほんとに有難うございました。福本さんは初めて寄稿されましたが、「ごーやー」のお話は、いいですね。25、6年前は「苦物」だったのですね。

座覇さんは二世の方ですが、沖繩へ行くと「沖繩口」でお話されて、喜ばれているそうです。こんなお話を聞くと、私も嬉しくなります。貴重なお話を有難うございました。

第7号も直ぐ編集を始めます。たくさんの方の原稿をお待ちしております。

会員以外の方も沖繩の言葉に関心がありましたら是非寄稿されるようお願い申し上げます。沖繩文字への変換は事務局で行います。また原稿は趣旨を変えないで手直しをする場合がありますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。そして大変恐縮ですが、原稿料はお支払いできませんので、会報を寄贈して薄謝に代えさせていただきます。

お問い合わせ

事務局 國吉 眞正 044-988-8065  
FAX 044-988-8065

---

## 第六号

語句の説明（中縄語辞典、広辞苑による）

まんぐる：ころ。おおよそその時を示す。

<sup>はるあつ</sup>  
原歩ちゃー：農民。農夫。

<sup>どーぶ</sup>  
胴褒みー：自分を褒めること。自讃。

なーべーらーんぶしー：なーべーらーを主として、豆腐・肉などを加え、汁を少なくして煮たもの。

うさぎゆん：さし上げる。

うさがゆん：召しあがる。

なんず：たいして。それほど。

<sup>むん</sup>  
いー物：いいもの。

んどーるごーやー：熟しているごーやー。

さっぱち：さっぱり。

<sup>ふーじ</sup>  
風儀：なりふり。ようす。

んちゃ：なるほど。全く。

たった。次第に。

ゝーりきさん：面白い。楽しい。

<sup>うび</sup>  
うる覚ー：うろ覚え。不確かな記憶。

<sup>ちむえー</sup>  
肝合：意味。わけ。

はしる：雨戸。くり戸。

やーやーど<sup>な</sup>成ゆん：ほっと安心する。

てーふ：冗談。おどけ。

ゝーちえー<sup>ちが</sup>拝むん：お会いする。お目にかかる。

なーふん：もっと。さらに。

<sup>くじいことば</sup>  
故事遺言葉：故事ことば。故事言い伝え。

しりゆん：おそくなる。時節が過ぎる。

ちゃーき：すぐ。じき。

はんめー：食糧。

にーさん：まずい。食べ物がおいしくない。

あながちさん：なつかしい。

<sup>うみ</sup>  
思ちちゆん：思いつく。

なちかさん：悲しい。

いふ：少し。わずか。

<sup>ゆすくに</sup>  
余所国：余所の国。外国。

かーま：遠方。遠く。

ふらゆん：つきあう。交際する。

しくぶー：台所（の土間）。

<sup>かりー</sup>  
嘉例：嘉例。吉例。めでたいこと。

<sup>ぬー</sup>  
何がやら：何が何だか。

まんちゃーふんちゃー：まぜこぜ。ごたまぜ。

# 沖縄文字一覧と用例

赤い字はこの号で使った字です

ど [tu]	どい(鳥) うど(音) みーど(夫婦)	𑄎 [hwe]	𑄎ー(南) に𑄎ーでーびる(有難うございます)
と [to]	とーふ(豆腐) とーばる(桃原)	へ [he]	へい(おい「目下への呼びかけ」)
ど [du]	どし(友人) やど(宿) どー(自分)	や [ja]*	やー(君、お前) やん(言わない)
ど [do]	どーぐ(道具) まんどーん(たくさんある)	や [ja]	やー(家) やん(である)
て [ti]	てーち(一つ) てーだ(太陽) てん(空)	ゆ [ju]*	ゆん(言う)
て [te]	てーく(太鼓) てーしち(大切)	ゆ [ju]	ゆんたく(おしゃべり)
て [di]	ふて(筆) むてー(喉) てきやー(秀才)	よ [jo]*	よーいー(おさな子)
で [de]	でーじ(大変なこと) ちょーでー(兄弟)	よ [jo]	よーんなー(ゆっくり)
ふ [kwa]	ふじ(火事) ふっちー(ごちそう)	あ [wa]*	あー(豚) あーちち(天気)
か [ka]	かじ(風) かんない(雷) かーま(遠方)	わ [wa]	わーむん(私のもの)
ふ [gwa]	にんふん(念願) ふんく(頑固)	あ [wi]*	あー(上) あーりきさん(面白い)
が [ga]	がんちょー(眼鏡、めがね) しがた(姿)	あ [wi]	あきが(男) あなく(女)
ふ [kwi]	ふー(声) さつふー(咳) ふゆん(呉れる)	あ [we]*	あーきー(金持ち) あんちゆ(ねずみ)
き [ki]	きー(木) きゆん(蹴る) きぶし(煙)	あ [we]	ういあー(お祝) わじゃあー(災い)
ふ [gwi]	ふーく(越来「地名」)	ん [N]*	んみ(梅) んに(稲) んなじ(うなぎ)
ぎ [gi]	かーぎ(容ぼう)	ん [N]	んに(胸) んみ(嶺井「地名」) んなど(港)
ふ [kwe]	ふー(鋏) からじふー(髪きり虫)	い [i]*	いん(縁) いだ(枝)
け [ke]	けー(かゆ) ちけー(使者)	い [i]	いん(犬) いーび(指) いちゆん(行く)
ふ [gwe]	ふったい(ぬかるみ)	ち [u]*	ちど(夫) ちーじ(さとうきび)
げ [ge]	げー(害) にげー(願い)	う [u]	うど(音) うーび(帯)
ふ [hwa]	ふー(葉) なーふ(那覇)	え [e]*	えーま(八重山) えーじ(八重洲)
は [ha]	はる(畑) はぎもー(荒地)	え [e]	えーさち(あいさつ) えーじ(合図)
ふ [hwi]	ふいじゃい(左) ふーど(いるか)	お [o]	おーじ(扇) おーさん(青い)
ひ [hi]	ひやみかすん(えい、と言う)	を [o]	をーじ(王子) をーれー(往来)

[ ]内は沖縄語辞典による読み方 (自由使用とされていますので、使用許可は要りません。)

\* は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

例 どい(鳥) ×どい

音の出だしに、僅かに i をひびかせます。